

類義語「かなり」「結構」の用法分析

レナ・アグスチナ・シナガ

0642031

マラナタキリスト大学

日本文学科学学校

バンドン

2009

類義語「かなり」「結構」の用法分析

序論

言語は、人間が他の人間とコミュニケーションを行うための手段である。全ての言語は普遍的な特徴及び独自の特性を持っている。普遍的な特徴の例としては、各言語の同義語である。ある言語の類義語を理解使用するのは困難なものの一つになっている。なぜならば、意味が似ているとしてもそのニュアンスが異なるからである。

意味の同じことばを日本語では類義語と言う。類義語はいろいろな品詞からなる。その一つは副詞がある。本論文は類義語の「かなり」及び「結構」にいかなるニュアンスがあるか、また置き換えが可能かどうか分析あるものである。

本論

広辞苑 (1995:233) では「かなり」の語彙的意味は、非常に、距離やサイズが一般的に既存のレベルを超えているとある。「かなり」は通常量・レベルの状態が普通以上である意味を表す。それらが最大ではないが、平均よりも上の方にあることを表す。

広辞苑（1992:808）では「結構」の語彙的の意味は構えつくることである。また相手の物事をほめるプラス評価の場合と、予想した程度よりもはるかに上回っているという意味もある。また、結構は現れた結果や現象に満足していたり、肯定的に見ている場合に使い丁寧に断るときに言う言葉として使う。

結論

かなりは両方の形容詞「い形容詞」や「な形容詞」を修飾することができる。名詞を修飾するとき、「かなり」とその名詞の間に助詞「の」が付く。かなりは一般的な水準を比較の基準としており、最高ではないが一般的な水準を目立つ程度に上回っていると言う様子を表す。

結構は形容詞の性質を修飾することができるが、悪いイメージの形容詞で使いません。このイメージは優位の語・劣位の語の組み合わせにおいて、一般的には、優位の語とは共起しやすいが、劣位の語とは共起しにくいと言う事ができる。結構は名詞を修飾するとき、結構と名詞の間に助詞「な」が付く。結構は程度の大きさとともに「それなりに」「満足できる程度に」と言った感想や評価を述べるときに用いる。この場合、「結構」は述語になる、また「結構」は会話やインフォーマルな状況の中で使われるのである。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR.....	v
SINOPSIS.....	viii
DAFTAR ISI.....	xi
BAB I PENDAHULUAN	
1.1 Latar Belakang Masalah	1
1.2 Rumusan Masalah	8
1.3 Tujuan Penelitian	8
1.4 Metode Penelitian dan Teknik Kajian	8
1.5 Organisasi Penulisan Skripsi	9
BAB II KAJIAN TEORI	
2.1 Sintaksis.....	11
2.2 Semantik.....	15
2.2.1 Struktur Leksikal.....	16
2.2.2 Sinonim.....	17
2.3 <i>Kanari</i>	20

2.4 <i>Kekkou</i>	22
BAB III ANALISIS PENGGUNAAN 類義語「かなり」「結構」DALAM KALIMAT BAHASA JEPANG	
3.1 かなり	31
3.2 結構.....	48
BAB IV KESIMPULAN	62
DAFTAR PUSTAKA.....	xiii
LAMPIRAN DATA.....	xv
RIWAYAT HIDUP.....	xxxvi